

# ふたば新聞

2014年(平成26年)9月発行  
 第27号  
 発行元:福生市立中央図書館  
 福生市熊川850-1  
 Tel 042(553)3111  
<http://www.lib.fussa.tokyo.jp/>

お又本  
お又本  
お又本

12冊!

All You Need Is Kill  
 桜坂洋一著 小畑健イラスト  
 キャラクター原案 安倍喜良俊  
 集英社JUMP JBOOKS  
 (二〇一四年)



今年あのハリウッドで、ミッシェル・ヨーハンソン主演のSF大作の原作は、実は日本のライトノベルだった!  
 近未来の世界を舞台に、主人公が突如時間のループに捕われ、苦しみ葛藤しながらも諦めず戦い成長していく...というストーリーは同じですが、主人公の年齢や身分をはじめ、映画と異なる部分が多数あり、映画を観てから読むという人でも新鮮な気持ちで物語に入り込めます。ぜひ「ループの世界」に飛び込んでみてください。

五郎治殿御始末  
 浅田次郎著  
 新潮文庫(二〇〇九年)



武士の世が終わったのはそんなに古い時代のことではありません。曾祖父、玄祖父のころの話です。この本は、幕末を生き残った武士が(時にはお殿様も!)新しい時代を生きる姿を描いています。仇を探す者、時計に馴染めず苦勞する人。激動の時代を「能う限りの最善の方法ですべての始末をつけねばならぬ!」...この言葉は凄みがあると思います。全能力で自身に起こる問題を解決して生きていくのはいつの時代も変わらないと感じました。  
 ※映画「拓海の仇討(二〇一四年九月公開)の原作です。

紹介されているのは福生市内の図書館に所蔵されています!



楽園の魔女たち  
 この夜が明けるまで  
 樹川さとみ著  
 集英社コバルト文庫(二九九八年)

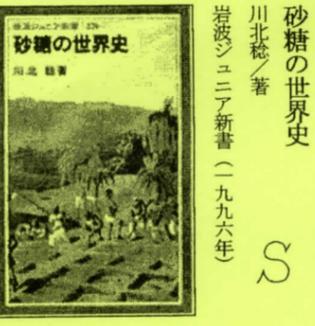


楽園に集められた四人の少女たち...しかし! 集まったのはみんな個性豊かな変人?たち。本物の帝国の姫君でプライドの高い殿下、赤毛の天才剣士少女、家事の出来る童顔人妻に、頭が良くクールだがどこかブツとんでる天才少女。そんな子たちを集めた魔法使いは変わり者のダメ男であった。他にも殺戮のゴクちゃんとか、マッチョの食事番などで始まるバカ騒ぎは心の中でツツコミをいれながら読んでみてください。



佐藤さん  
 片山優子著  
 講談社文庫(二〇〇七年)

ちよつと可愛い、性格も大人しい隣の佐藤さん。でも僕は佐藤さんが怖い。なぜなら、佐藤さんの背後にはいつも幽霊が憑いているから!そして僕は見えてしまう体質だから! 秘密にしていたのに、なぜかバカバカしくなってきた。しかも佐藤さん本人に。かくして僕は幽霊成仏作戦に協力させられることに。おしやべりな幽霊(!)に振り回される中で少しずつ、僕と佐藤さんとの距離が縮まってきた。けれど佐藤さんが好きなのは「僕」でなくて「幽霊が見えるひと」なんじゃないかなるか? 友達も恋人も、ひとを信じるのは勇気がいること。大切なひとを少しずつ得ていく、僕の物語。



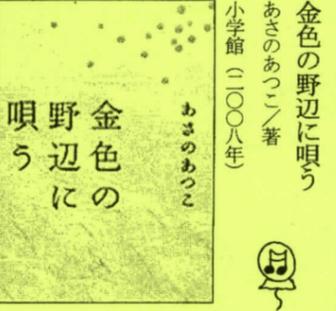
砂糖の世界史  
 川北稔著  
 岩波ジュニア新書(一九九六年)

今日の朝ごはんは何を食べましたか。ジャム?ヨーグルト?そこには、もしやお砂糖が入っていたのではありませんか。私たちが毎日食べているお砂糖の原料は、インドネシアのどこかで生まれたと言われています。そこからどのようにして世界中に、そして日本にまで広まってきたのでしょうか。 お砂糖と、それに関わる人の旅が、この本には紹介されています。甘い砂糖からは思いもよらない、辛い苦しい旅。ちよつと覗いてみませんか。



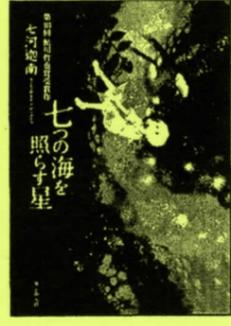
ローワンと魔法の地図  
 リンの谷のローワン1  
 エミリー・ロッタ著  
 さくまゆみ訳 佐竹美保絵  
 あすなろ書房(二〇〇〇年)

リンの谷の生命線である川が、急に干上がってしまった。水源の異常を調べに村の勇者たちが旅立つことに。ところが預言者は旅の導き手に、村でいちばん臆病な少年・ローワンを指名します。果たして弱虫ローワンに大役が務まるのか?旅の一行の行く末は?そして水源の秘密とは?本場の強さとは何かを考えさせられる重厚なファンタジーです。文字も大きくてふりがなが多く、さし絵もとても素敵なので、最近本を読んでいる方、心打たれるシーンが、いっぱいあるので読書の秋にいかがですか?  
 ※オーストラリア最優秀児童図書賞受賞。シリーズ全五巻全館所蔵。



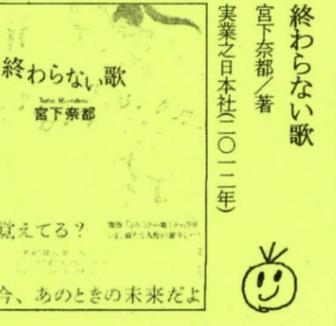
金色の野辺に唄う  
 あさのあつこ著  
 小学館(二〇〇八年)

九二歳の松恵は息を引き取ろうとしている時、ふと先だった夫の発した言葉を思い出します。「奈緒子は、だれの子だ」と。松恵を疑ったまま、死んでいった夫を松恵は向こうにいったら、どうするか考えます。娘の奈緒子、孫の嫁の美代子、ひ孫の東真、花屋の店員の史明の四人に見送られ、彼女は、美しい風景とともに逝こうとしていました。様々な想いを抱えた四人の話を聞き、その心を受け止めてきた大おばあちゃんのお話です。読んでいくうちに優しい気持ちになっていくお話です。



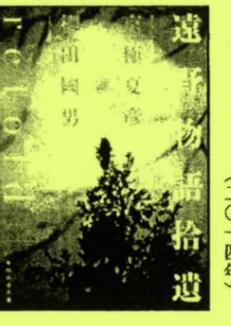
七つの海を照らす星  
 七河迦南著  
 東京創元社(二〇〇八年)

北沢春菜が勤める七海学園は、いろいろな事情を抱える子供たちが集まる児童養護施設。次から次へと起こる学園の七不思議... 施設内で亡くなったはずの生徒がいたり、行き止まりの廊下なのにいなくなったり少女...という不思議なことが、起こる。北沢春菜は、児童相談所(児相)の海王と、親友の野中花音に相談するが、この本は、難しい字もありませんが、心打たれるシーンが、いっぱいあるので読書の秋にいかがですか?  
 ※第一回鮎川哲也賞受賞。



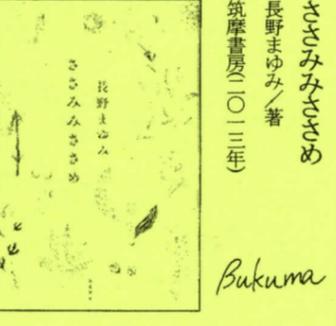
終わらない歌  
 宮下奈都著  
 表紙の日本社(二〇一二年)

二十歳になった女の子たちはミュージカル女優を目指すために日々努力していく。そんな彼女たちの未来はどうなっていくのか。 歌が好きで人にとっては、とてもあったかくなるようなお話。未来に向かっていく登場人物たち。切ないところもあります。ぜひ読んでみてください。  
 ※『よるの歌』(二〇〇九年刊行)全館所蔵の続編。



遠野物語拾遺 retold  
 京極夏彦著  
 角川学芸出版(二〇一四年)

この本は柳田國男先生の著『遠野物語拾遺』を、書き改めたものです。基となっている『遠野物語拾遺』は、岩手県遠野とその周辺に伝わる伝承や昔話、話とするには短すぎるちよつとした言い伝えまで、あらゆる話を二九九話分類し、まとめたものです。これに筆を足し、話の順序を入れ替え調整したものがこの一冊となっています。 原典のある程度分類はされているものの雑然さが残る部分を、時期や内容で関連した話を並べ、より遠野物語全体を見渡しやすい構成になっています。少し不思議だったり、少し怖かったりする遠野物語。読みやすくなったこの一冊から始めてみてはいかがでしょうか。



ささみみささめ  
 長野まゆみ著  
 筑摩書房(二〇一三年)

長野まゆみさんの短編集です。一つの話が十ページ程と短く、あつという間に読んでしまえます!ミステリーの話もあれば、何回読んでもおもしろい話もありません。不思議な話もあります。クスリと笑えてしまえる『ママには、ないしよにしておくれ!』が私のおすすめです。



レ・ミゼラブル 上・下巻  
 ヴィクトル・ユゴー著  
 永山篤一訳  
 角川書店(二〇一二年)

一八一五年、ジャン・バルジャンという男がパンを一つ盗んだだけで、一九年も鎖につながれていた。でも、そんなある日、仮釈放されたが、ジャン・バルジャンは約束を破り逃亡してしまいました。やがて彼は市長になり、町の人々を助けていました。そんな中、ファンテーヌという女性と出逢いました。その女性はクビにされ、娘(コゼット)と離れ離れに生活をしていました。ファンテーヌは病気がかり、死にそうでした。その時、ジャン・バルジャンは彼女に「コゼットは私が育てる」と約束しました。すると、彼女は安心して眠りに落ちました。ジャン・バルジャンはどうなるのか、コゼットに会えるのか?それは是非本を見てみてください!  
 ※表紙画像は上巻です。